

和田英雄・春日町遺跡資料展

昭和49年 1月～2月 毎土・日曜日

春日町遺跡の土器

和田英雄

春日町遺跡（下図第1地点）は昭和38年12月、名古屋市中区春日町75番地の5で発見されたもので、この遺跡の発見が、従来より遺跡の存在が希薄とされていた地域から、縄文晩期・弥生・歴史時代に至る遺跡を発見する発端となつたものである。

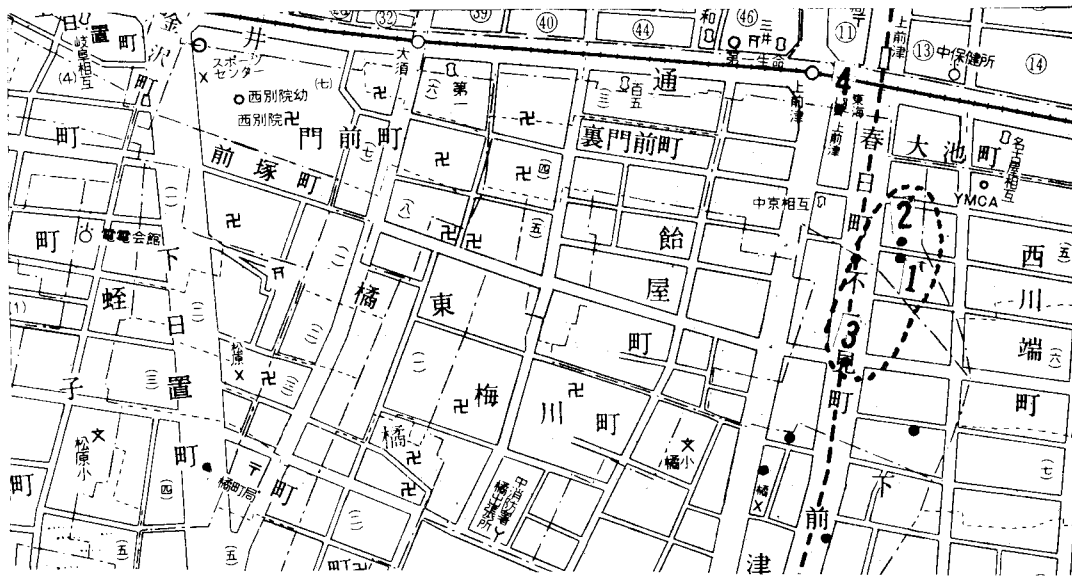
遺跡は不二見町の高台が南に向つてのびる東側の緩斜面にあり、20cm～50cmの表土の下に、ハマグリ・カキを主体として、オキシドミ・サルボウ・シドミ・アカニシ・ウミナナを含む20cm～30cmの混土貝層が30程度の傾斜

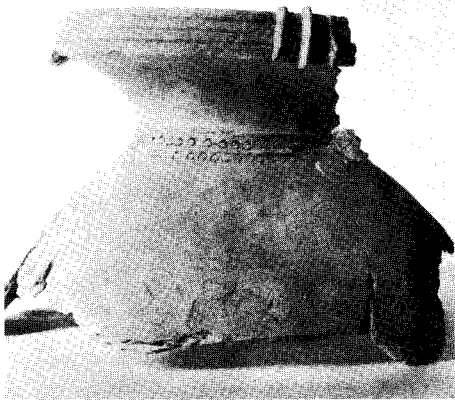
で西から東に降つており、その下さらに30cm前後の黒色土層を経て黄色土層の基盤に達する状態であり、この混土貝層と貝層上の黒土層より多量の土器が出土したのである。

土器は弥生式文化後期の欠山式土器の特徴的傾向をよく表わしており、高環形土器や器台形土器には全面に縦位の鋭磨きを加えられ焼成が極めて良好のものである。

また下図第3地点からは弥生式文化中期の土器が出土しているが、この地点に中期の確実な時期があつたのか、あるいは後期初頭の土器型式の中に残存していたものかは土器の量が少なく断定が難しい。

春日町遺跡の位置（陳列してある資料は1・3地点より出土したものである）





第1地点の壺形土器

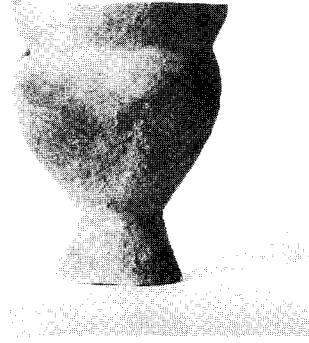
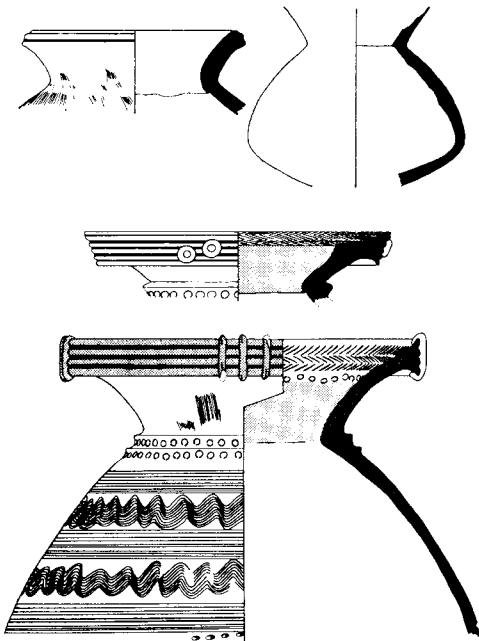
第1地点の土器

壺形土器

大形で口縁が大きく外方に開き広口となるものと、小形のものがある。

大形で広口の壺形土器は口縁部が複雑な形態を示すもので、口縁端部を幅広くして一面を作り、凹線文をめぐらし、その上から棒状浮文を付している。頸部には竹管文を施した断面三角形の凸帯を、胴部上半部には楕円描きの横線文・波状文・列点文を施している。胴

第1地点の壺形土器



第1地点の甕形土器

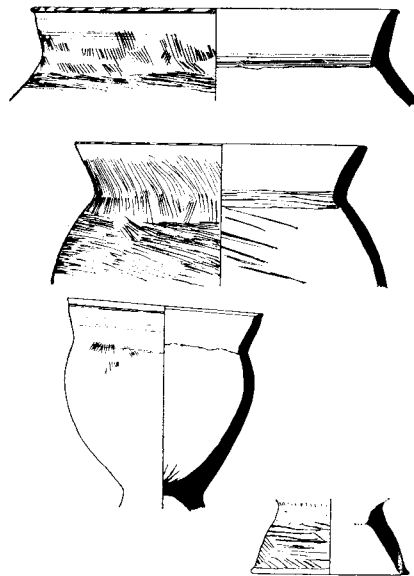
部が縦長に近い形態であり、前段階からの過渡的様相を示す土器と言えよう。

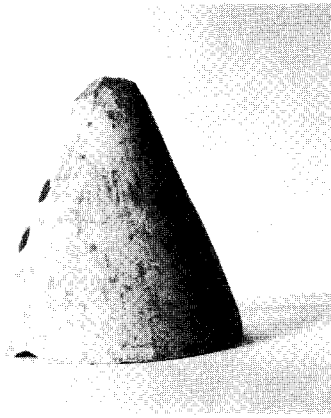
小形の壺形土器は器面を篋磨きにより仕上げ、焼成が極めて良好である。この仕上げ方法は弥生式文化後期の欠山式土器に表われるものである。

甕形土器

図のように口縁部が「く」の字状に外反し、器面は刷毛面と粗雑な条痕で仕上げられて

第1地点の甕形土器





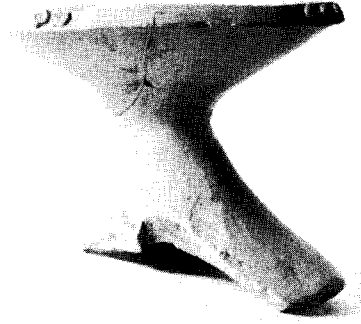
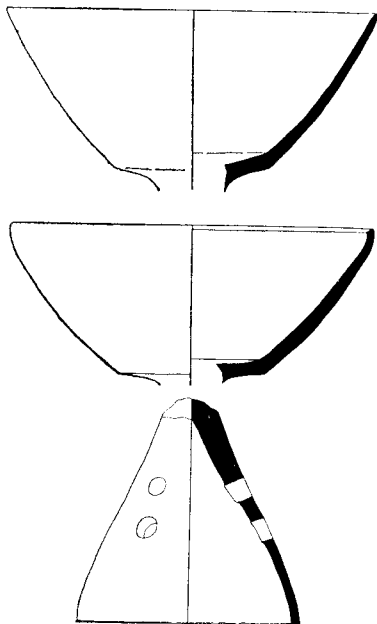
第1地点の高坏形土器の脚部

おり、底部には脚台が付くものである。口縁端部に櫛状具による刻み目を付しているが、これは先行形式の影響であろう。

高坏形土器

坏部が深く、口縁部と下底部は稜を作つて接続し、口縁端部に一面を設けるものがある器面は縦位の篋磨きにより整形されているがこの形態と整形の手法は欠山式土器の特徴を最もよく表わしている。

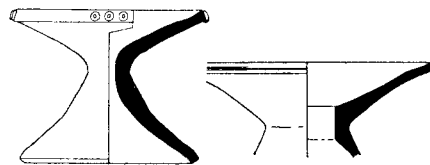
第1地点の高坏形土器



第1地点の器台形土器

一方、脚部が比較的高い柱状となり、上位に櫛描きの直線文を施すものや赤彩を施すものがある。坏部は浅い盤状となるものであろうが、この遺跡からは小破片が出土したのみである。

第1地点の器台形土器



器台形土器

8個体出土した。

総て小形で、器面は高坏形土器と同様に縦位の篋磨きにより仕上げられている。

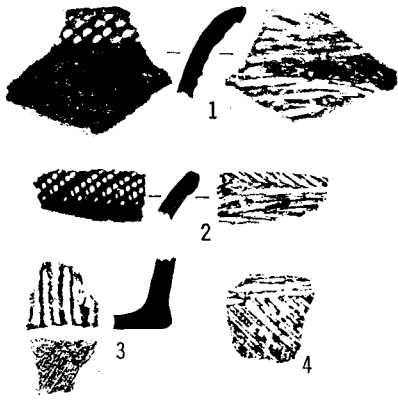
第3地点の土器

細頸壺形土器

2個体あるが肩部に篋状具で横線を螺旋状に施したものは、櫛状具で同時に数条施される直線文とは区別されるものである。

甕形土器

口縁部が「く」の字状を呈し、端部には刻目を施して器面を刷毛目により仕上げている



第3地点の貝田町式土器

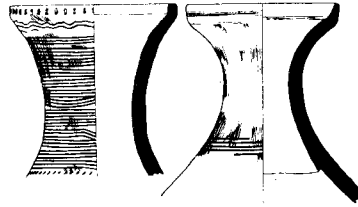
深鉢形土器

口縁部と底部の布目痕は貝田町式の標式土器である。

石 斧

ピット状遺構内より土器片と共に出土したものである。

現在は春日町遺跡の周辺はビルが林立し、昔の地形を知ることは不可能であるが、時々ビルの谷間の空地を踏査すると、円筒ハニワ



第3地点の壺形土器

の破片、弥生式土器片、須恵器片などが採集できる。

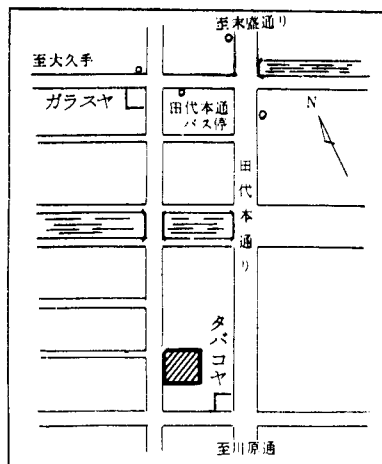
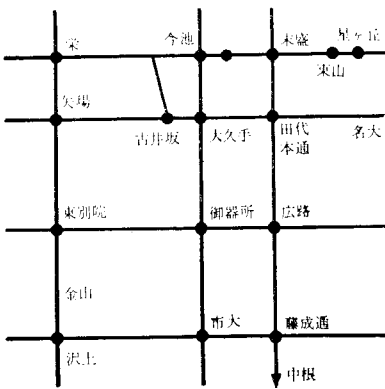
また駐車場などを造築するため地ならしを行なうと、必らずと言つていい程、弥生式土器包含層(それが2次的な堆積であるにせよ)が観察できるのである。

今後、注目しなければならない所である。

和田英雄 さんの考古学への情熱

名考会でお会いすることは間々あつたが、深いお付き合いができたのは金山橋の市民会館工事場でした。和田さんは下前津の会社にお勤めされ、地下鉄工事、金山駅工事を始め一般市民の考えもしないビル街で失われて行く中区一带の考古学遺跡の調査を続けてこられた功績に心より敬意を表します。(荒木)

次の展示会は { 3~4月 井波一雄植物展
5~6月 中山 清貝類展



場 所 名古屋市千種区大島町2-83
荒木 集成館

〒464 ☎751-2616

開館日 毎週土曜午後1時~5時
日曜午前9時~午後5時

協力費 見学の参考資料、パンフレット等をご協力下さい

バスの便

栄→田代本通終点下車
名駅⇄若宮⇄田代本通下車⇄星ヶ丘
金山橋⇄田代本通下車⇄星ヶ丘
池下⇄田代本通下車⇄中根

地下鉄 覚王山下車
田代本通に向つて10分